

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 16 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370409

研究課題名(和文) 現存『柳宗元集』南宋諸版本の実証的研究

研究課題名(英文) A Verified Study of the Existing Works of Liu Zongyuan in the Southern Song Dynasty

研究代表者

戸崎 哲彦 (TOSAKI, Tetsuhiko)

島根大学・法文学部・教授

研究者番号：40183876

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：現存する『柳宗元集』の南宋刊本は、劉禹錫原編三十巻に属する永州公庫本三十三巻本残巻と、北宋・沈晦校刊四十五巻本に属する韓醇詒訓本、眉山百家註本、魏仲學五百家註本、鄭定重校添註本、劉怡増広音辯本、廖瑩中刪去註氏本に大別され、さらに後者は韓本と劉本と眉本等の三系統に分けられる。前者は正集とは別に序目一巻を備えた三十一巻であり、また編者・作者の文学観と制作時期を反映した編次になっているが、後者は内容分類によって編次を大きく変えている。眉本は魏本・鄭本・廖本へと継承されているが、韓本と魏本には註を異にする複数の覆刻本が存在しており、鄭本では補修部分に今日亡失する多くの版本と註とが用いられている。

研究成果の概要(英文)： The existing Works of Liu Zongyuan in the Southern Song are divided into two types. In the first place, they are Yongzhou Edition belongs to Liu Yuxi Edition which has 33 Volumes. In the second place, Han Chun Edition, Meishan Edition, Han Zhongyu Edition, Zheng Ding Edition, Liu Yi Edition and Liao Yingzhong Edition belongs to Shenhui Edition which has 45 volumes. The former type is more trustable.

There are some evidence to read Works of Liu Zongyuan more correctly. The former shows the literal perspective of the authors and editors, and was edited by ordering the times of works. On the other hand, the latter was edited by categorizing the contents. There are many reprinted edition of Han Chun Editon and Han Zhongyu Edition which have different notes which Meishan Edition succeed to Han Zhongyu Edition, Zheng Ding Edition and Liao Yingzhong Edition. Zheng Ding uses many printed books and notes which do not exist at present in repairing portions.

研究分野：中国古典文学

キーワード：柳宗元 劉禹錫 韓醇詒訓 永州三十巻本 金澤文庫 鄭重 劉欽 重校添註

## 1. 研究開始当初の背景

柳宗元の評価は、文化大革命期を経て劇的に高くなり、国内外において研究も高まっているが、基礎であるテキストの文献学的研究についてはなお不十分である。「音辯本」は四十三巻本が用いられていたが、南宋刊本は四五巻本であり、蓬左文庫蔵金沢文庫旧蔵にその鈔本があり、北京大学図書館に刊本が蔵されていること、また金沢文庫旧蔵本には「音註本」が一部書写されていること、詁訓本は四庫全書本が通行本であるが、蒼要本や四庫底本の存在はほとんど知られていない。ちなみに2013年10月に尹占華等校注『柳宗元集』10冊(中華書局)が呉文治等校点『柳宗元集』4冊(1979年中華書局)を修訂補足する形で出版されたが、上記のテキストおよび台湾・国家図書館蔵「鄭本」、日本蔵残本「永州本」など、現存南宋刊本の多くが用いられていない。

## 2. 研究の目的

現存する早期の『柳宗元集』は南宋本であるが、今日、何が存在し、それらは如何なる形でどこにどれだけ存在し、またいかなる特徴と価値とを有するのか。(1) まずそれらの所蔵先を究明し、可能なかぎり現存本(多くがマイクロフィルム)を直接調査して、刊本・鈔本、足本・残本、存巻・存葉などの状況を究明する。(2) 同一本の関係、残本間、また諸本間の異同・継承関係、テキストとして特徴と優劣・貴重性について考察する。(3) この過程で、今まで知られていなかったもの、先の音辯本四十五巻本や音註本・蒼要本のような新発見が期待される。これらの研究を通して柳宗元の基礎研究的にして最優先されるべき資料を提供する。

## 3. 研究の方法

(1) 国内外の図書館・研究機関等の蔵書目録の類および歴代の蔵書家・書志学者等の書目題跋等および先行研究による事前の文献学的研究。(2) 所蔵本の現物の状況と行款・版式・版心等、「序」・刊記等、「目録」・「正集」・「別集」・「外集」・「附録」等の構成と所収・編次等の特徴を調査・記録し、複写・写真等によって資料収集する。(3) 比較・対校による文献学的研究。調査・収集して得た資料およびすでに影印・複写出版されているもの、尹占華・呉文治等の校勘資料との比較、正誤・補足の検討。(4) 同系統の間及び異系統との間の関係については輯注者、刊刻者、刊刻地、刊刻時期を明らかにする。(5) 同系統間及び異系統間の異同を集計しデータ化し、刊刻との関係の究明、諸本の系統的関係と特徴・価値の考察を行う。

## 4. 研究成果

(1) 韓本：蜀・韓醇『新刊詁訓唐柳先生文集』、淳熙四年(1177)。以下、略称を用いる。

①現存の諸本とのその関係：通行本は四庫全書文淵閣本であり、その拠った中国国家図書館蔵の清・天祿琳琅旧蔵宋刊本は今日佚亡

するが、幸い国家図書館蔵四庫全書底本と四庫全書蒼要本の鈔本が存在する。四庫全書底本は書式や書込み、字体・配置等の不一致や蔵書印とその位置関係によって、少なくとも三種の鈔本を配補した合本であり、天祿琳琅蔵刊本→甲種底本→蒼要本(乾隆四三年)、乙種底本→丙種底本→文淵閣本(四六年)、文溯閣本(四七年)、文津閣本(四九年)という先後関係が想定され、韓本系統では四庫全書底本と蒼要本が善本であるが、呉氏校本では文津閣本を、尹氏校本では文淵閣本を用いる。

②現存諸本の特徴と価値：四庫底本のみ巻1末に韓愈「柳子厚墓誌銘」「祭柳子厚文」を加えて宋刊本の形を留め、また蒼要本には「宋刊本」に拠る校勘記を附しており、これによって南宋刊本の復元が可能である。四庫底本・蒼要本のみ王咨の「序」全文を附す。『全宋文』には未収。

③二種類の南宋韓本：天祿琳琅舊蔵本『新刊詁訓』には百家註本に引く「韓曰」韓醇詁訓との相異が多々あること、「孫目」孫汝聽註が正集中に一か所に止まるが韓醇補遺の「新編外集」には多く見られることから、天祿琳琅舊蔵本は韓醇原編本ではなく、蜀中書坊が韓註を中心として孫汝聽・祝充等の他註も採り入れ、さらに韓愈「墓誌」等を加えたもので、淳熙四年(1177)以後の刊刻であると考えられる。

(2) 鄭本：嘉興・鄭定『重校添註音辯唐柳先生文集』、嘉定十四年(1221)。

①刊刻年代：嘉定十四年(1221)に特定される。また別名を当時改名された州名によって「嘉禾註本」とも呼ばれた。

②現存諸本とその関係：所蔵先と存巻葉状況は次の通り。A：台湾・中央図書館蔵#09756：四五巻、外集二巻。B：台湾・中央図書館蔵#09758：存17巻(「目録」残葉、巻8-13、巻23-25、巻29-30、巻35-39、巻42)。C：現収蔵者不明(1997年に中国のオークションで出品、清末の陳蓮痕旧蔵)：存残21葉(「序目」)。D：広東省博物館蔵：存3巻(巻20-22)。E：北京図書館蔵#5562：存5巻(巻18-20、巻43-44)。F：南京博物院蔵：存2巻(巻37、巻41)。G：日本・東京大学東洋文化研究所蔵：存1巻(巻9)。H：日本・関西大学図書館：存1巻(巻10)。I：台湾・中央図書館蔵#09757：四五巻、外集二巻。C本はB本の僚巻、H本はG本の僚巻であり、「目録」「解題」等に「元明初遜修」とするのは誤り。I本を「元明遜修」とするのも正確ではない。現存はA・B・C・D・E・F・G・H・Iの五部、あるいはF残巻が未見であるためにG・H残巻との関係は未詳であるが、FとG・Hとを分ければ計六部となる。

③現存本と原刻本との関係：この内、A本とI本が足本であるが、呉文治・尹占華ともに用いていない。ただし原刻鄭本は全約1,170葉(正集45巻1,092葉、外集2巻37葉、「目録」37葉、外「目録」2葉、巻首「劉

序」2葉、鄭定「後序」)であり、その内、序目を除けば、A本は全体の1割弱(8%)を、I本は2割弱(17%)を缺葉し、補修されている。したがって使用には注意が必要である。両本は缺葉の大半が重なるが、A本に無くI本に有る原刻葉は計12葉、これによって原刻を補足可能。また、B本に補葉はなく、缺葉はI本の缺葉を含んでやや多い。A本の缺葉は、E本によって5葉を、G本によって2葉を、H本によって1葉を補うことができる。D本は未見であるが、最大で3葉の補足が期待される。F本も未見であるが、残存部分にA本の缺葉はない。したがって鄭本の缺葉は60葉から57葉(80-12-8- $\alpha$ ;  $\alpha \leq 3$ )、全体の5%余に減少する。

④A本・I本の補修葉とその関係：A本は補修は影鈔による補配、I本は補刻と影鈔とによる方法が採られている。A本影鈔の所拠は鄭本が多数を占め、次いで廖本「世綵堂本」、さらに沈晦四十五卷本にあっても系統の異なる劉本「音辯本」も若干用いられている。I本補修の所拠は補刻では鄭本と廖本が、影鈔では主に廖本が、劉本が若干用いられている。A本の缺葉はI・B本の缺葉を共有して最も少ないから、A>I>Bの先後関係が想定され、しかもI本の共通缺葉部分は劉本に拠った補刻であり、A本に100%重なる。

⑤鄭本の特徴と価値：「重校添註」の所拠本には、韓本91条、邵武本3条、元符京本1条、趙本1条、呂本7条、蜀本4条、謝本4条、晁本5条がある。いずれも今日に伝存しない。そのうち趙本は知永州趙善愷『柳文』(紹熙二年1191)、元符京本は沈晦「後序」に見えるそれ、邵武本は張敦頤『韓柳音釋[辨]』(紹興二六年1156)、晁本は晁補之(1053-1110)『續楚辭』『變離騷』である。最も多い韓本は天祿琳琅旧蔵本『新刊詁訓唐柳先生文集』にない異文を伝えるが、坊刻本と韓醇原編本との相異に因るものであるかどうかは今後の研究が必要である。また、補修部分には今日知られていない註文を含むものがあり、魏本・鄭本・廖本や劉本の他に別の輯註本を使用している。補修部分といえども貴重な資料を提供している。

(3) 魏本：建安・魏仲举『新刊五百家註音辯唐柳先生文集』、慶元六年(1200)。

①現存本とその関係：北京・中国国家図書館蔵南宋刻本、存十一卷；四庫全書文淵閣本・文津閣本残卷；日本五山版本、福建の刻工兪良甫が京都嵯峨で覆刻(慶元元年1387)。五山版本が正集を備えているが呉氏・尹氏ともに用いていない。

②魏本の異本：南宋刻本・四庫全書本・五山版本にはすでに正文に若干の異同があるが、五山版本には他に見えない増補の註文が見える。また、島田翰『古文舊書考』によれば卷首「目録」の後に『誠齋集』卷九十五の一卷である楊萬里「天問天對解」が附刻されていた一本があった。魏本にも数種類があっ

たことはほぼ確かである。

(4) 廖本：臨安・世綵堂廖瑩中『河東先生集』、宋末。

北京・中国国家図書館に現存。鄭本の99%は魏本と重なり、廖本は鄭本によって「〜曰」形式を削除した。つまり沈晦四十五卷本の系統は眉本>魏本>鄭本>廖本へと次第し、一つの系統を成している。沈本の系統にありながらやや異にするのが韓醇詁訓本と劉本である。

(5) 劉本：劉怡『增廣註釋音辯唐柳先生集』、淳祐九年(1249)。

①現存：南宋劉欽序刊本は北京大学図書館に、その鈔本は蓬左文庫(金沢文庫旧蔵)に所蔵。麻沙坊刻本。

②劉本の特徴：「後序」を寄せた劉欽は朱子の高弟の一人として知られる建陽の劉燾(1144-1216)の孫と考えられる。この音辯本は南劍州王伯大刊の朱文公校定『韓集』と共に明・元に盛んに合刊されるが、すでに南宋か開始している可能性がある。半世紀近く先行して魏仲举が輯註して『韓集』『柳集』五百家註本を合刊していたが、『韓集』では五百家註本が採らなかった王伯大「音釋」を全面的に採用し、『柳集』では五百家註本の採らなかった潘緯の『音義』を全面的に採用した輯註本として特徴を出しただけでなく、王伯大本『韓集』は朱熹『考異』による校定本であり、『柳集』では朱熹の説を多く採り入れ、両集合刊本によって、朱子学の隆盛に随って広く国内外に流布した。

(6) 南宋四十五卷本の底本沈晦本の構成。沈晦四十五卷本を復元すれば表のようになる。

| 韓醇『新刊詁訓唐柳先生文集』(底本：沈晦『四明新本河東先生集』) |            |    |            |               |              |
|----------------------------------|------------|----|------------|---------------|--------------|
| 慶州刺史劉禹錫《柳河東集原序》                  |            |    |            |               |              |
| 權發遣珍州單州事王咨《《柳河東集》新刊詁訓序》          |            |    |            |               |              |
| 《目録》                             |            |    |            |               |              |
| 01                               | 唐雅唐詩貞符 十七首 | 21 | 題序 六首      | 41            | 祭文 一十五首      |
| 02                               | 古賦 九首      | 22 | 序 十三首      | 42            | 古今詩 七十六首     |
| 03                               | 論 一十首      | 23 | 序 十二首      | 43            | 古今詩 七十五首     |
| 04                               | 議辯 一十三首    | 24 | 序 十一首      | 44            | 非國語上 三十一篇    |
| 05                               | 古聖賢碑 九首    | 25 | 序體遺遺體釋 十七首 | 45            | 非國語下 三十七篇    |
| 06                               | 釋教碑 五首     | 26 | 記誓書 一十四首   | 沈晦輯《外集》       |              |
| 07                               | 釋教碑銘 六首    | 27 | 記誓書 六首     | 上             | 賦文誌 五首       |
| 08                               | 行狀 三首      | 28 | 記福廟 九首     | 下             | 表啓 十八首       |
| 09                               | 表銘碑誌 一十首   | 29 | 記山水 一十首    | 沈晦記：“摠六百七十四   |              |
| 10                               | 誌 一十首      | 30 | 書明麗貴終 六首   | 篇……政和四年”      |              |
| 11                               | 誌碑誌 一十一首   | 31 | 書 九首       | 韓醇輯《新編外集》     |              |
| 12                               | 墓表誌 六首     | 32 | 書論政論限師 四首  | 新             | 墓誌 五百        |
| 13                               | 墓誌 十三首     | 33 | 書 四首       | 01            | 汝連州員外司馬成君墓誌銘 |
| 14                               | 對 五首       | 34 | 書 一十二首     | 02            | 萬年縣丞柳君墓誌并序   |
| 15                               | 問答 三首      | 35 | 啓 八首       | 03            | 處士段弘古墓誌      |
| 16                               | 說 一十一首     | 36 | 啓 十三首      | 04            | 潯州兵曹柳君墓誌     |
| 17                               | 傳 八首       | 37 | 表慶賀 三十四首   | 05            | 永州……譚隨亡母毛氏誌文 |
| 18                               | 駢 一十首      | 38 | 表 二十六首     | 韓醇記：“淳熙丁酉”    |              |
| 19                               | 弔贊儀戒 十五首   | 39 | 奏狀 二十三首    | 《後序》          |              |
| 20                               | 銘雜題 一十二首   | 40 | 祭文哭辭 一十五首  | 穆修《後序》：“天聖九年” |              |

韓本には卷首に類目と所収数が示されており、沈晦四十五卷本系統には見えない特徴

であるが、蒼要本・文淵閣等の諸本の中に異同があり、また実際に収める首数とも部分的に異なり、さらに沈晦本系統にある百家註本・五百家註本・鄭本・世綵堂本・音辯本とも出入りがある。

(7) 永本：南宋・永州公庫三十三卷刊本（嘉定元年 1208）。

①南宋・永州公庫三十三卷本の残巻が東京・山本書店よりブックフェアに出品。本残巻は金澤文庫旧蔵本で静嘉堂文庫現蔵本の貴重な僚巻である。

②日本における伝来：静嘉堂文庫現蔵本（明治四〇年）＜松方正義（徳富蘇峰の斡旋、明治三六年）＜竹添進一郎（明治二〇年 1887）、また山本書店＜？（明治初）＜浅野長祚梅堂＜新見正路賜蘆文庫＜屋代弘賢不忍文庫（天保五年（1834）以前）＜金澤稱名寺の二経路が存在する。

③永本の特徴と価値：劉禹錫原編次本は三十巻であり、四十五巻本の祖本である北宋・穆修刊本はすでに錯簡していた三十巻本系統に他人の作を含む新輯補遺を加えて分類編次しなおしたものであり、劉編本は文体分類による分巻と各文体巻内は制作年代による編次がなされ、巻首に「目録」と「墓誌」等の一卷を仕立てた、計三十一巻本であった。

④劉禹錫原編の構成：劉禹錫の編次した三十巻本の構成は次のようなものであったと推測される。

| 劉禹錫編《唐柳先生文集》三〇巻本 |                   |             |
|------------------|-------------------|-------------|
| 00               | 目録                |             |
|                  | 韓愈《柳子厚墓誌銘》《祭柳子厚文》 |             |
| 01               | 唐雅、唐詩、貞符          |             |
| 02               | 賦(?)              | 古賦          |
|                  |                   | 今體賦         |
| 03               | 古今詩(?)            | (永州所作)      |
| 04               |                   | (回京途次及柳州所作) |
| 05               | 表(?)              |             |
|                  | ………               |             |
| 13               | 騷弔(?)             |             |
| 14               | 說                 | 如說者附之       |
| 15               | 贊                 | 箴・戒         |
| 16               | 序                 | 上           |
| 17               |                   | 中           |
| 18               |                   | 下           |
|                  | ………               |             |
| 29               | 狀                 |             |
| 30               | 啓                 |             |
|                  | 夔州刺史劉禹錫《紀(序)》     |             |

##### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

①戸崎哲彦、劉禹錫編《唐柳先生文集》三〇巻本復原、『文学遺産』2017、査読有、印刷中

②戸崎哲彦、南宋鄭定刊『重校添註音辯唐柳先生文集』考(上)、『島大言語文化』42号、2017、1-35、<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/38608>

③戸崎哲彦、『増廣註釋音辯唐柳先生集』『朱文公校昌黎先生集』合刊初考(下)、『島大言語文化』41号、2016、1-45、<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/38256>

④戸崎哲彦、韓醇《詒訓唐柳先生文集》南宋刊本初攷、孫昌武教授八十華誕紀念文集(天津・百花文藝出版社)2016、76-112

⑤戸崎哲彦、『増廣註釋音辯唐柳先生集』『朱文公校昌黎先生集』合刊初考(中)、『島大言語文化』40号、2016、1-35、<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/35367>

⑥戸崎哲彦、南宋永州刊『唐柳先生文集』三三巻本初攷、『島大言語文化』39号、2015、1-57、<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/35363>

⑦戸崎哲彦、『増廣註釋音辯唐柳先生集』『朱文公校昌黎先生集』合刊初考(上)、『島大言語文化』38号、2015、37-90、<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/31598>

⑧戸崎哲彦、『増廣註釋音辯唐柳先生集』43巻12行本考——12行本の特徴および13行本との関係、『島大言語文化』37号、2014、15-55、<http://ir.lib.shimane-u.ac.jp/31441>

[学会発表] (計 4 件)

①戸崎哲彦、唐人集本與石本之異及其原因——以柳宗元撰《獨孤君(申叔)墓志》為考察線索、中国唐代文学会國際學術研討会(中国・成都市、西南交通大学文学院)、2016.9.9

②戸崎哲彦、韓愈撰《柳子厚墓誌銘》考異——其原文與韓愈之筆法、中国古代散文学界國際學術研討会(中国・桂林市、広西師範大学文学院)、2016.9.2

③戸崎哲彦、劉禹錫編《唐柳先生文集》三〇巻本復原事始——據南宋永州刊三三巻本窺探劉禹錫“編次”及其用意、柳宗元國際學術討論会(中国運城市、運城学院)2015.10.31

④戸崎哲彦、日本鈔本紹定六年臨江軍刊王伯大《昌黎先生集音釋》與方崧卿佚書《韓詩編年箋校》、唐代文学國際學術研討会(中国・蘇州市、蘇州大学)、2014.10.11

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：

種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戸崎 哲彦 (TOSAKI, Tetsuhiko)

島根大学・法文学部・教授

研究者番号：40183876

(2) 研究分担者

( )

研究者番号：

(3) 連携研究者

( )

研究者番号：

(4) 研究協力者

( )